平成２８年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝３

配付資料

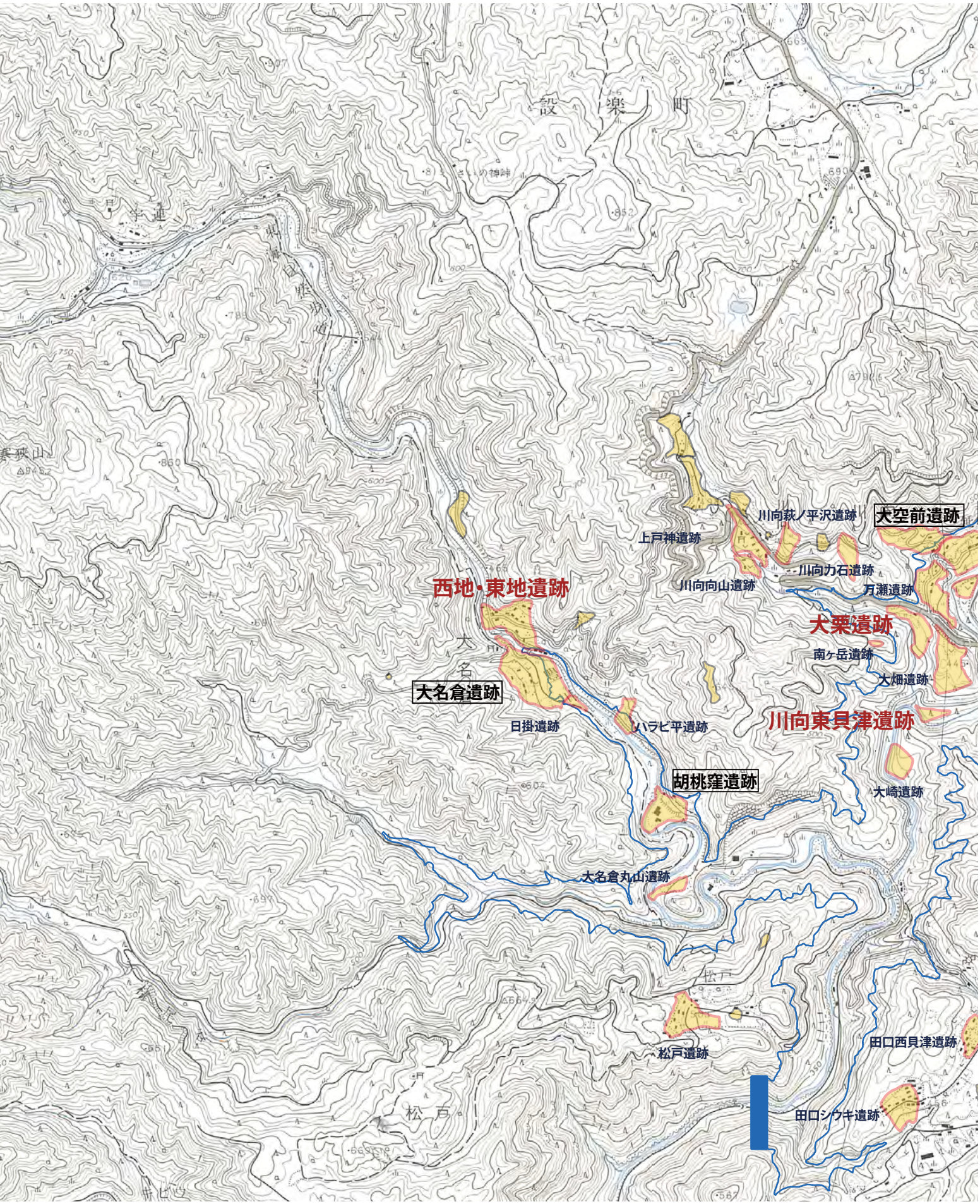
日時：　平成 29 年３月４日（土）

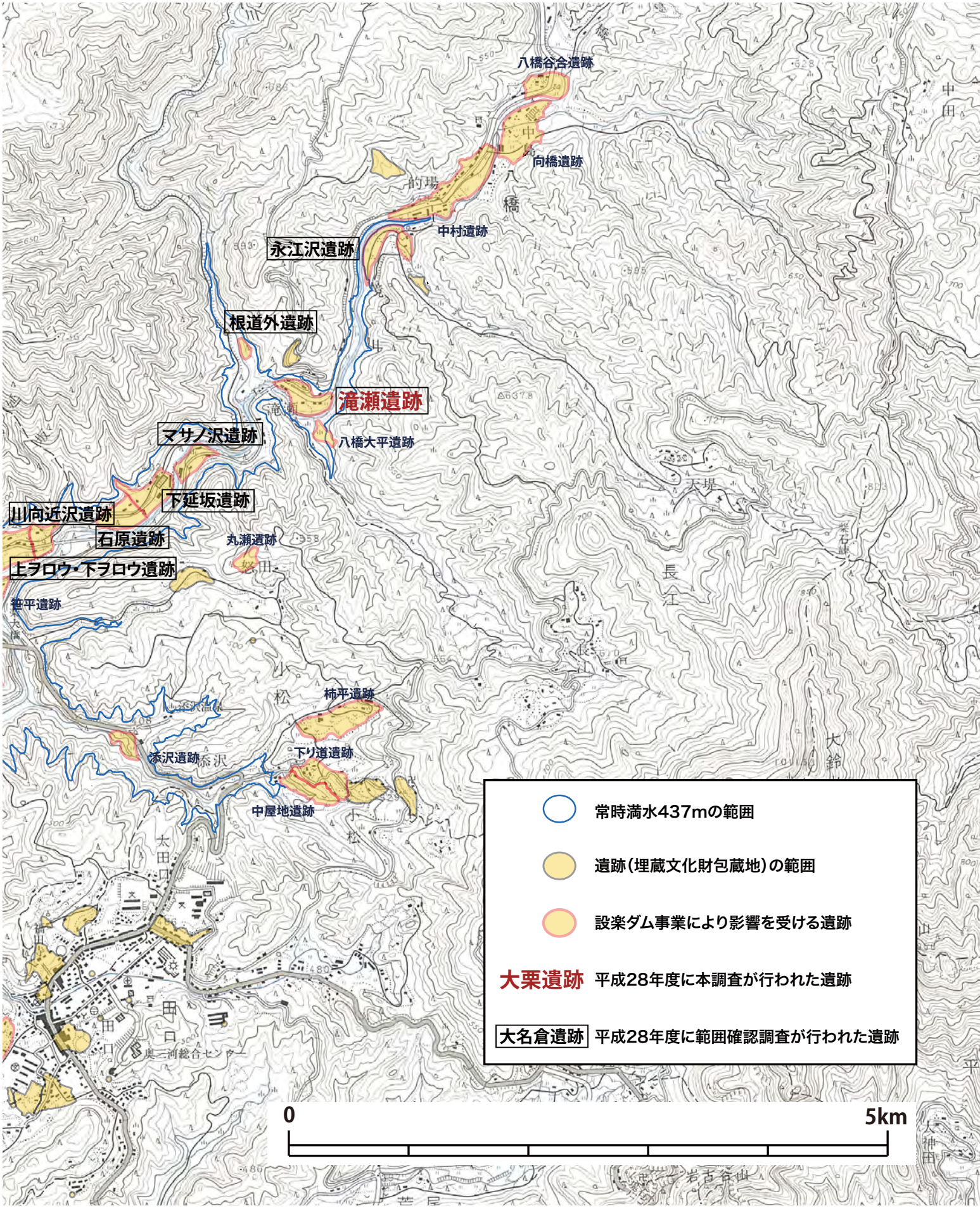
於　：　設楽町役場議場

報告１　平成 28 年度の設楽ダム関連発掘調査について
　　松本 彩（愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室）
報告２　平成 28 年度の範囲確認調査
　　永井邦仁（愛知県埋蔵文化財センター）
報告３　川向東貝津遺跡の発掘調査
　　樋上 昇（愛知県埋蔵文化財センター）
報告４　大栗遺跡の発掘調査
　　鈴木恵介（愛知県埋蔵文化財センター）
報告５　西地・東地遺跡の発掘調査
　　川添和暁（愛知県埋蔵文化財センター）
報告６　滝瀬遺跡の発掘調査
　　早野浩二（愛知県埋蔵文化財センター）

設楽町教育委員会
国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所
（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
愛知県教育委員会

設楽ダム関連遺跡地図


設楽町
大空前遺跡
川向萩ノ平沢遺跡
上戸神遺跡
川向力石遺跡
川向向山遺跡
万瀬遺跡
西地・東地遺跡
大栗遺跡
南ヶ岳遺跡
大畑遺跡
大名倉遺跡
日掛遺跡
ハラビ平遺跡
川向東貝津遺跡
胡桃窪遺跡
大崎遺跡
大名倉丸山遺跡
松戸遺跡
田口西貝津遺跡
田口シウキ遺跡


八橋谷合遺跡
向橋遺跡
中村遺跡
永江沢遺跡
根道外遺跡
滝瀬遺跡
八橋大平遺跡
マサノ沢遺跡
下延坂遺跡
川向近沢遺跡
石原遺跡
丸瀬遺跡
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡
笹平遺跡
柿平遺跡
添沢遺跡
下り道遺跡
中屋地遺跡
常時満水437mの範囲
遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の範囲
設楽ダム事業により影響を受ける遺跡
大栗遺跡 平成28年度に本調査が行われた遺跡
大名倉遺跡 平成28年度に範囲確認調査が行われた遺跡
0
5km

1.平成28年度 設楽ダム関連発掘調査について

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室　松本 彩

1．はじめに

2．開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続

3．平成28年度設楽ダム関連の発掘調査について

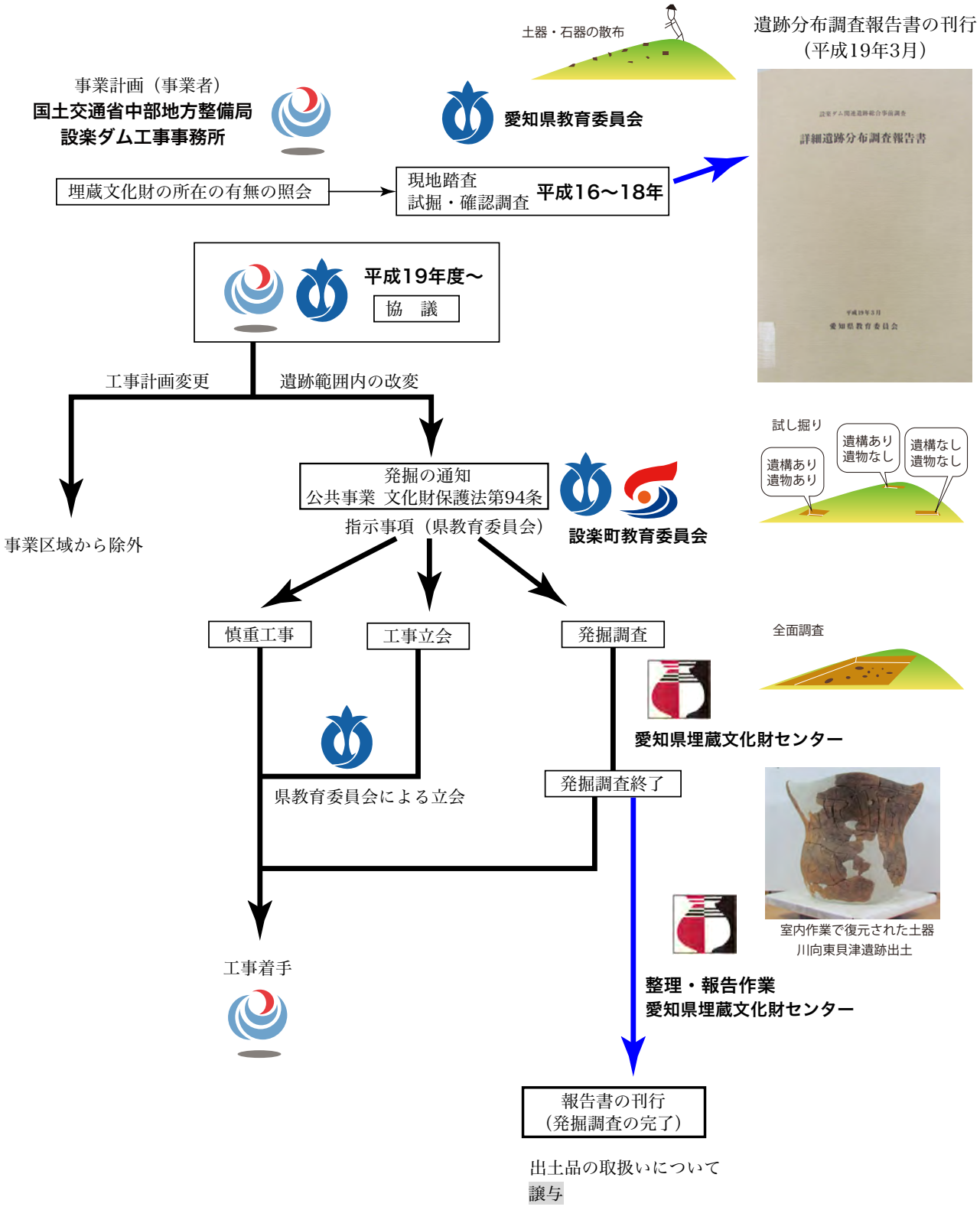
平成28年度 発掘調査遺跡一覧

発掘本調査　（㎡）

遺跡名	面積
西地・東地	340
大栗	3,190
川向東貝津	810
滝瀬	5,250
計	9,590

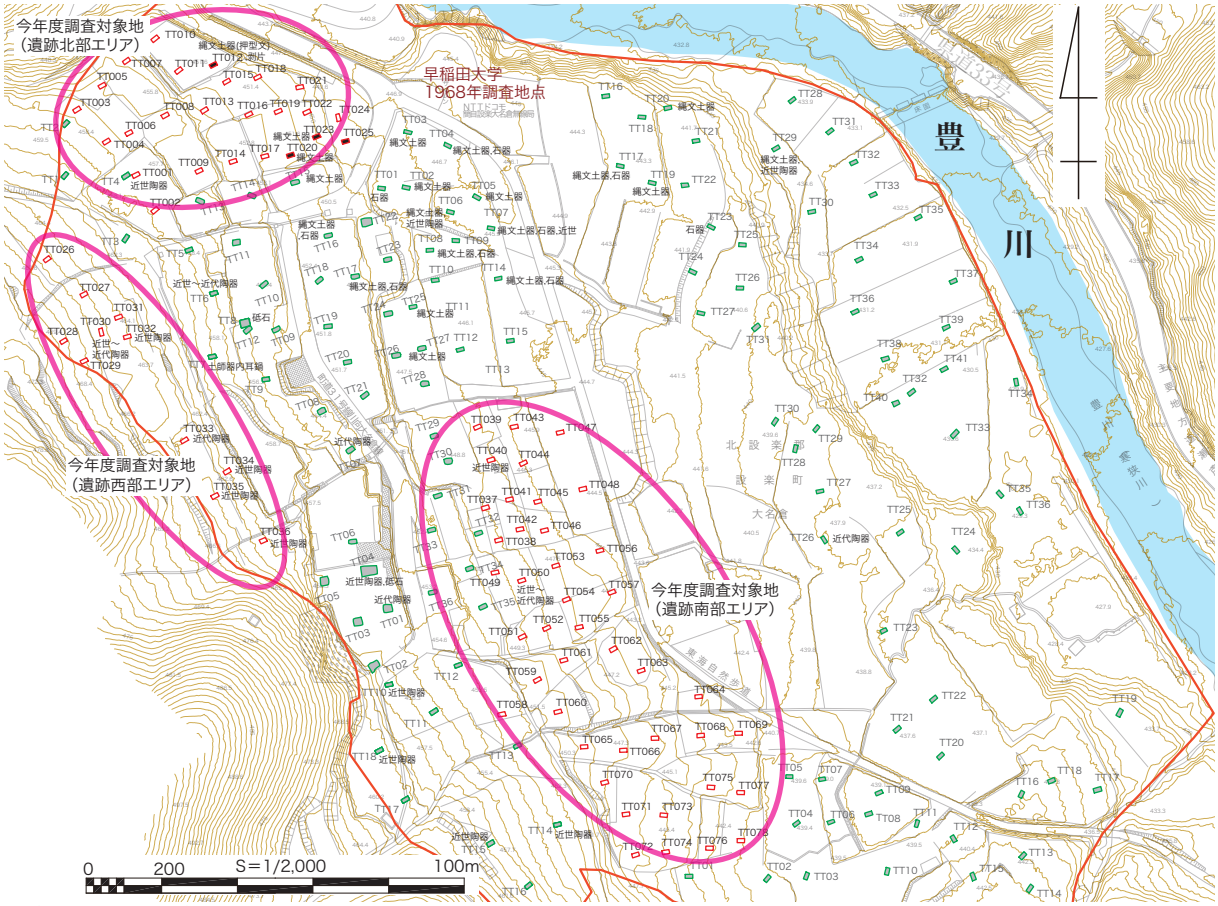
範囲確認調査　（㎡）

遺跡名	面積
大名倉	156
胡桃窪	494
大空前	60
上ヲロウ・下ヲロウ	750
川向近沢	500
石原	730
下延坂	828
滝瀬	322
根道外	172
永江沢	124
マサノ沢	364
計	4,500

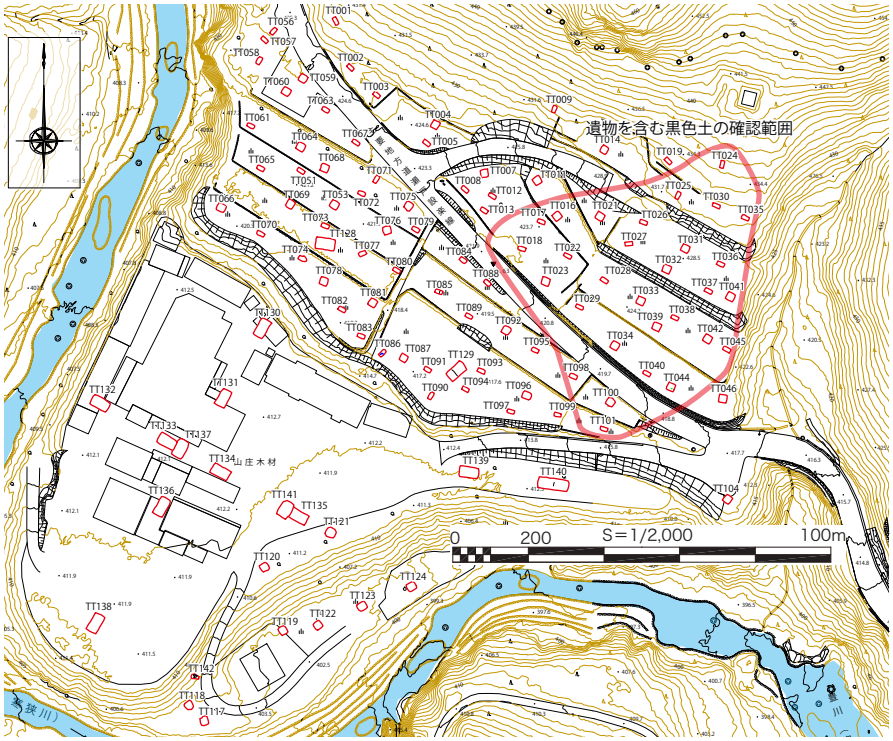

土器・石器の散布
遺跡分布調査報告書の刊行
（平成19年3月）
事業計画（事業者）
国土交通省中部地方整備局
設楽ダム工事事務所
愛知県教育委員会
詳細遺跡分布調査報告書
埋蔵文化財の所在の有無の照会
現地踏査
試掘・確認調査
平成16～18年
平成19年度～
協　議
工事計画変更
遺跡範囲内の改変
試し掘り
遺構あり
遺物なし
遺構なし
遺物なし
遺構あり
遺物あり
発掘の通知
公共事業　文化財保護法第94条
指示事項（県教育委員会）
設楽町教育委員会
事業区域から除外
慎重工事
工事立会
発掘調査
全面調査
愛知県埋蔵文化財センター
県教育委員会による立会
発掘調査終了
室内作業で復元された土器
川向東貝津遺跡出土
工事着手
整理・報告作業
愛知県埋蔵文化財センター
報告書の刊行
（発掘調査の完了）
出土品の取扱いについて
譲与

2.平成28年度の範囲確認調査

愛知県埋蔵文化財センター　永井 邦仁



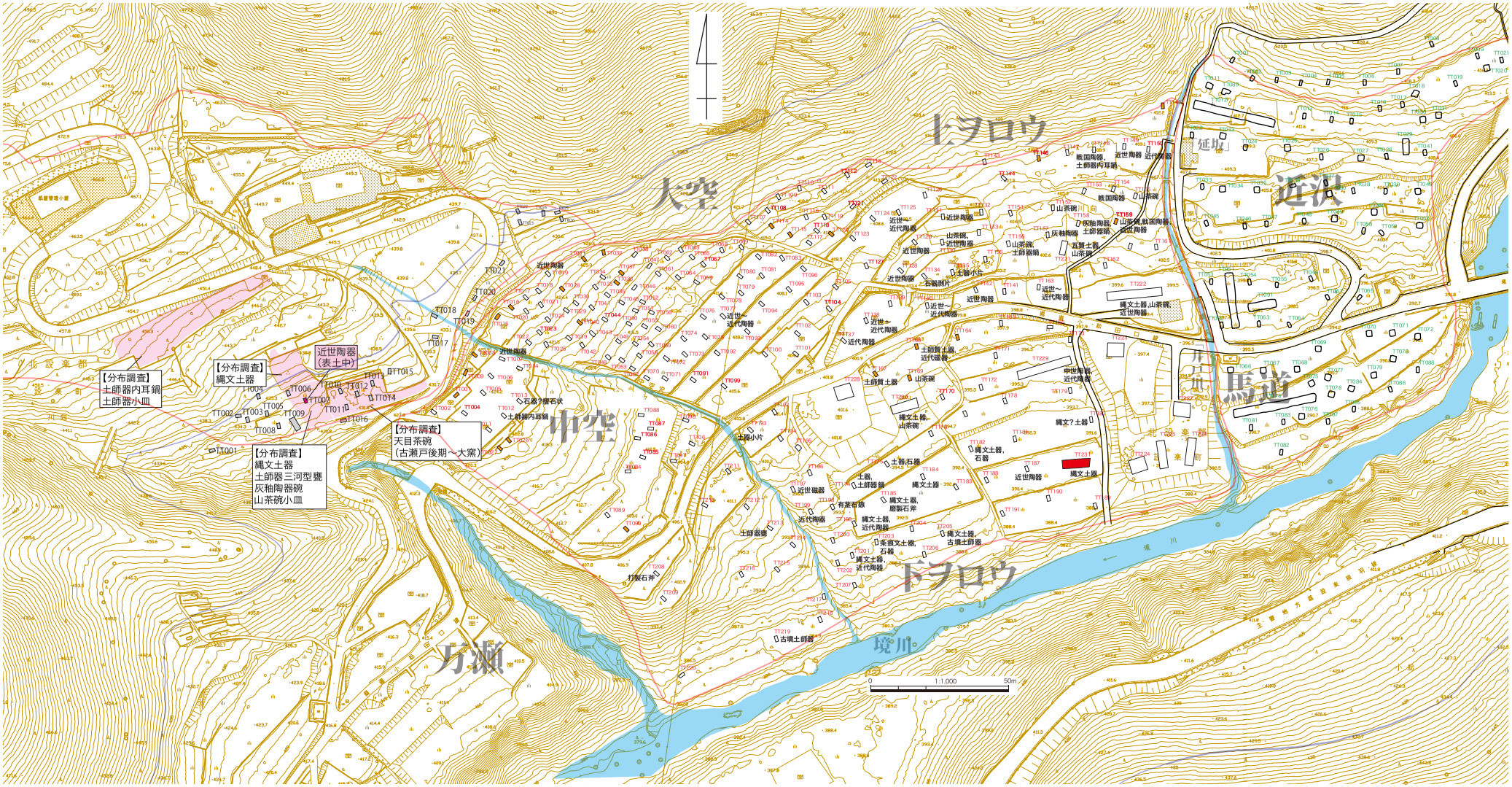
大名倉遺跡（大名倉地区）



胡桃窪遺跡（大名倉地区）

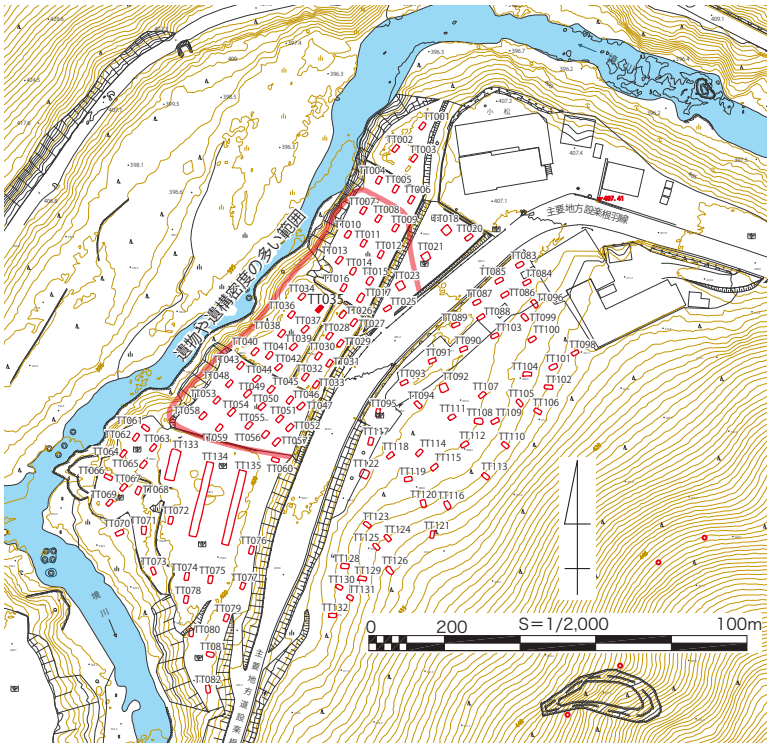
大名倉遺跡では、昭和43年（1968）の早稲田大学の発掘調査地点とその周辺が遺跡の中心と考えられます。今年度はその北側で範囲確認調査を行い、縄文時代早期の押型文土器や縄文時代中期後葉の土器が出土し、遺跡の広がりがみえてきました。

胡桃窪遺跡では県道より上の耕作地で灰釉陶器などを包含する黒色土の広がりが確認されました。



大空前遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、川向近沢遺跡（川向地区）

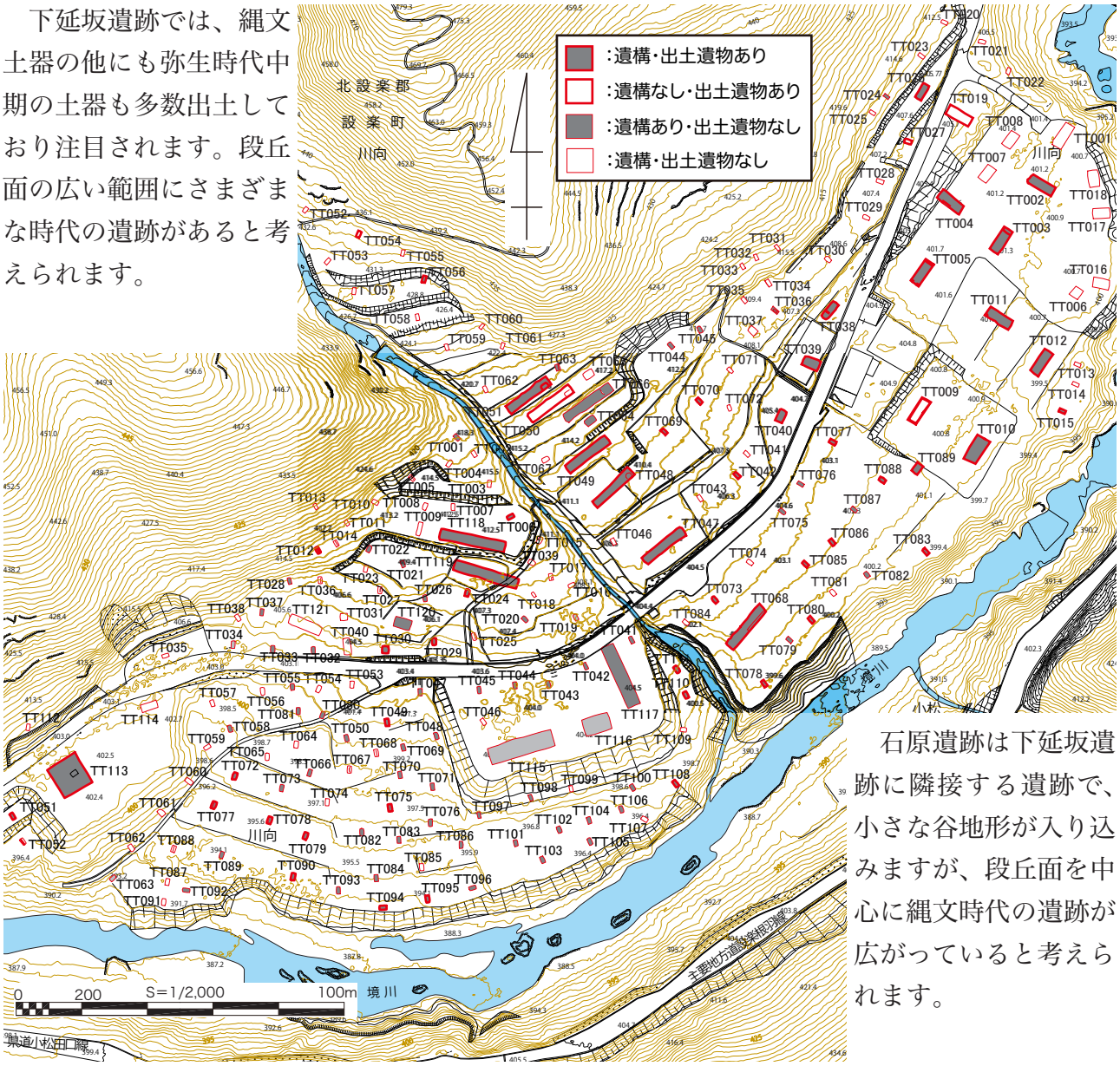
上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では、上方の斜面地で平安時代から戦国時代の遺物包含層を確認しました。一方、下方の境川近くでは縄文時代中期とみられる竪穴建物跡の一部や縄文土器が出土し、さまざまな時代の人びとが暮らしていたものと思われます。なお大空前遺跡や川向近沢遺跡でも範囲確認調査を行いましたが、斜面崩落でできた地層が大半で、顕著な遺構や遺物は見つかっていません。



マサノ沢遺跡（小松地区）

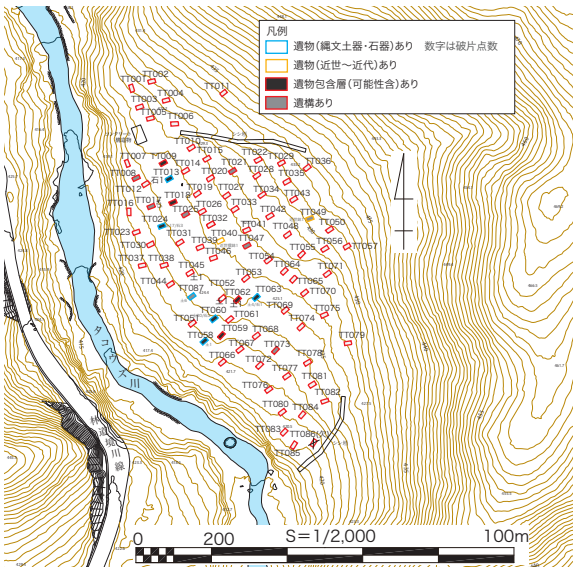
マサノ沢遺跡は、境川が屈曲する河岸段丘面に立地しています。対岸には下延坂遺跡があります。県道付近から川までの平らな耕作地では、縄文時代後期～晩期の土器や石器が多量に出土したことから、縄文時代を中心とする遺物包含層が広がっているものと考えられます。また、TT035 では、石囲炉が検出されました。この遺構周辺では縄文時代後期の土器が出土していますので、おそらくその頃の竪穴建物跡に伴うものと考えらえます。

下延坂遺跡では、縄文土器の他にも弥生時代中期の土器も多数出土しており注目されます。段丘面の広い範囲にさまざまな時代の遺跡があると考えられます。



石原遺跡は下延坂遺跡に隣接する遺跡で、小さな谷地形が入り込みますが、段丘面を中心に縄文時代の遺跡が広がっていると考えられます。

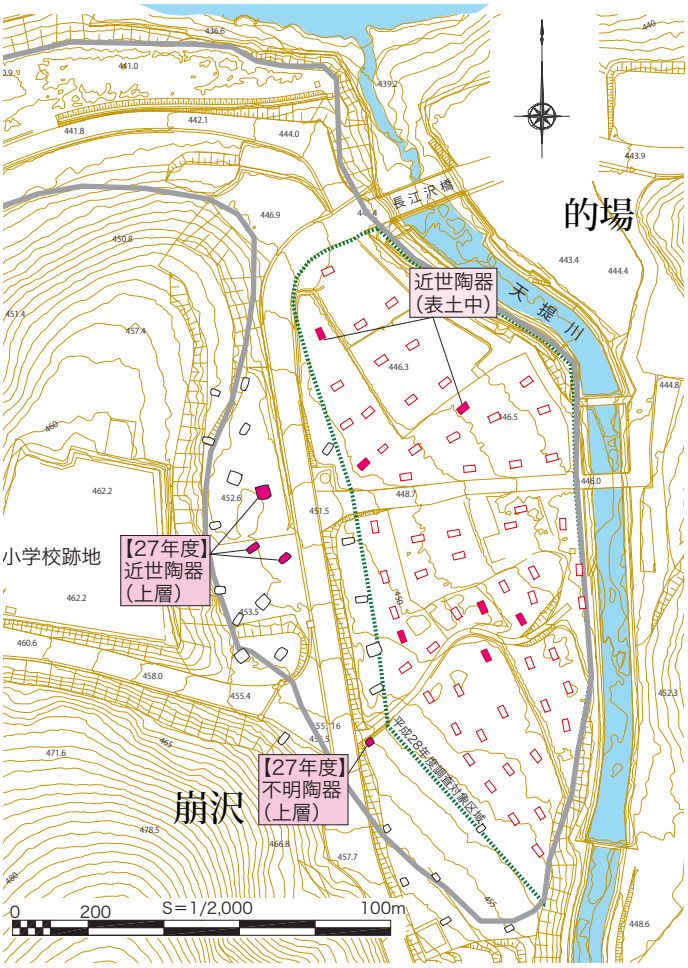
下延坂遺跡（沢から北東側）石原遺跡（沢から南西側）、（川向地区）



根道外遺跡（八橋地区）

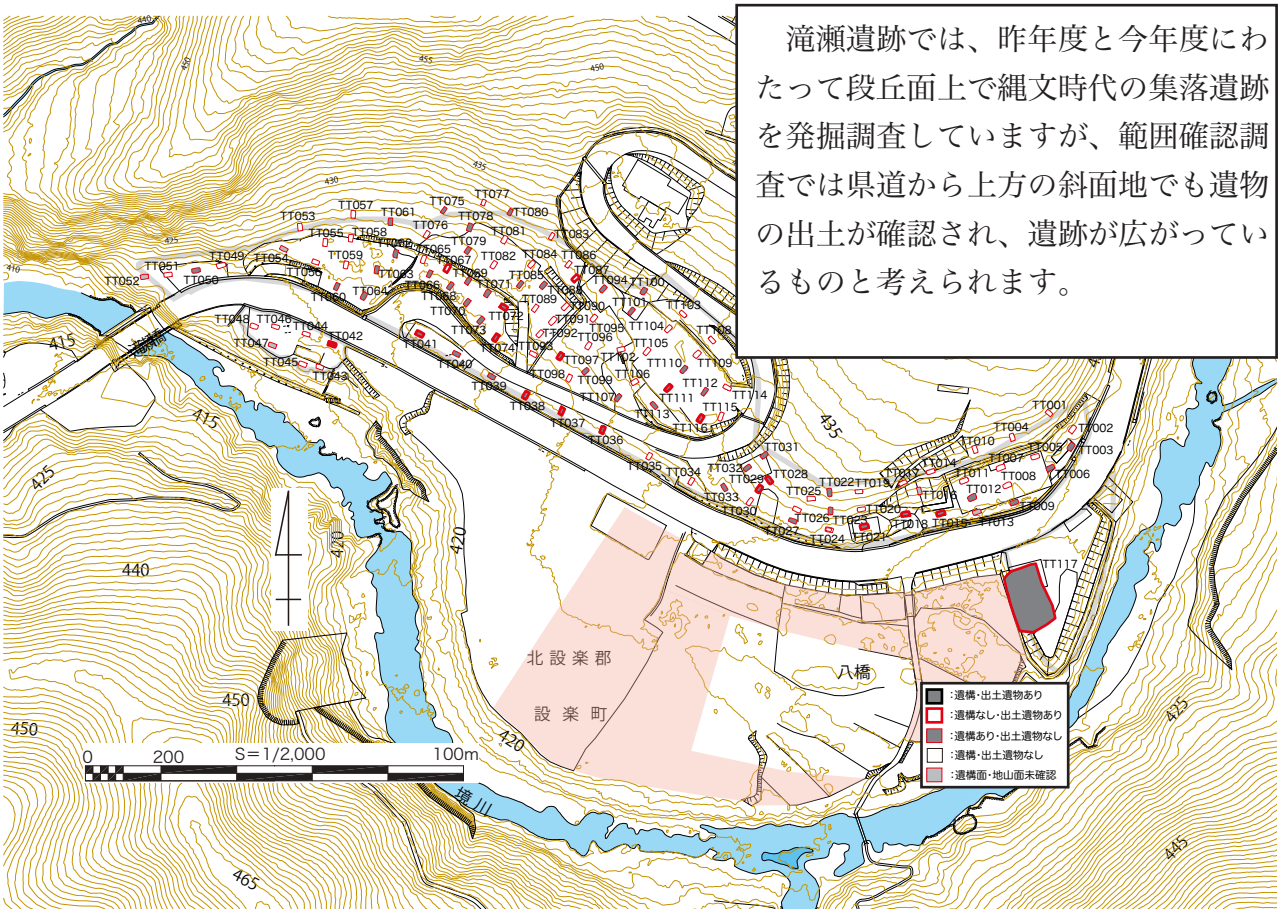
根道外遺跡では、狭い範囲ですが、縄文時代中期の土器を包含する層があり、竪穴建物跡とみられる遺構も検出されました。

永江沢遺跡では天堤川沿いの斜面地を調査しましたが、崩落でできた地層が大半で、江戸時代の陶磁器が少し出土した程度です。



永江沢遺跡（八橋地区）

滝瀬遺跡では、昨年度と今年度にわたって段丘面上で縄文時代の集落遺跡を発掘調査していますが、範囲確認調査では県道から上方の斜面地でも遺物の出土が確認され、遺跡が広がっているものと考えられます。



滝瀬遺跡（八橋地区）

3.川向東貝津遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　樋上 昇

所在地：北設楽郡設楽町川向字東貝津（北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒）
調査期間：平成28年５月～９月
調査面積：810㎡
調査担当者：樋上 昇・武部真木

立地と環境

川向東貝津遺跡は豊川の支流にあたる境川右岸の河岸段丘上に立地しています。昨年度の調査で縄文時代中期の竪穴建物跡３棟のほか、集石炉や陥し穴、さらに縄文時代後期の竪穴建物跡2棟などを確認しました。その際、後期旧石器時代から縄文時代草創期の遺物の出土があり、範囲確認調査によって、昨年度調査区のうち西側の810㎡について、さらに下層を今年度改めて調査することになりました。

調査の成果

今年度の調査では、調査区北西端と南西端の2ヶ所に石器集中区を確認しました。そのうち、まず調査区北西端の石器集中区では、後期旧石器時代から縄文時代後・晩期までの石器が混在していることが明らかとなりました。堆積した土のなかに土石流によると思われる自然の角礫がたくさん混じることから、この川向東貝津遺跡よりも高い標高の遺跡（大畑遺跡か？）からの流れ込みである可能性が高いです。

いっぽう、南西端の石器集中区では、縄文時代草創期と後期旧石器時代の石器群が層位的にほぼ混在することなく出土しています。うち、縄文時代草創期の遺構面では、愛知県内でも最多となる20点を超える尖頭器（槍先）の出土が注目されます。

また、後期旧石器時代の遺構面では、4ヶ所程度の石器群のまとまり（ユニット）があります。縄文時代草創期のような完成された石器がほとんど出土していないことから、ここが石器製作の場であったと考えられます。

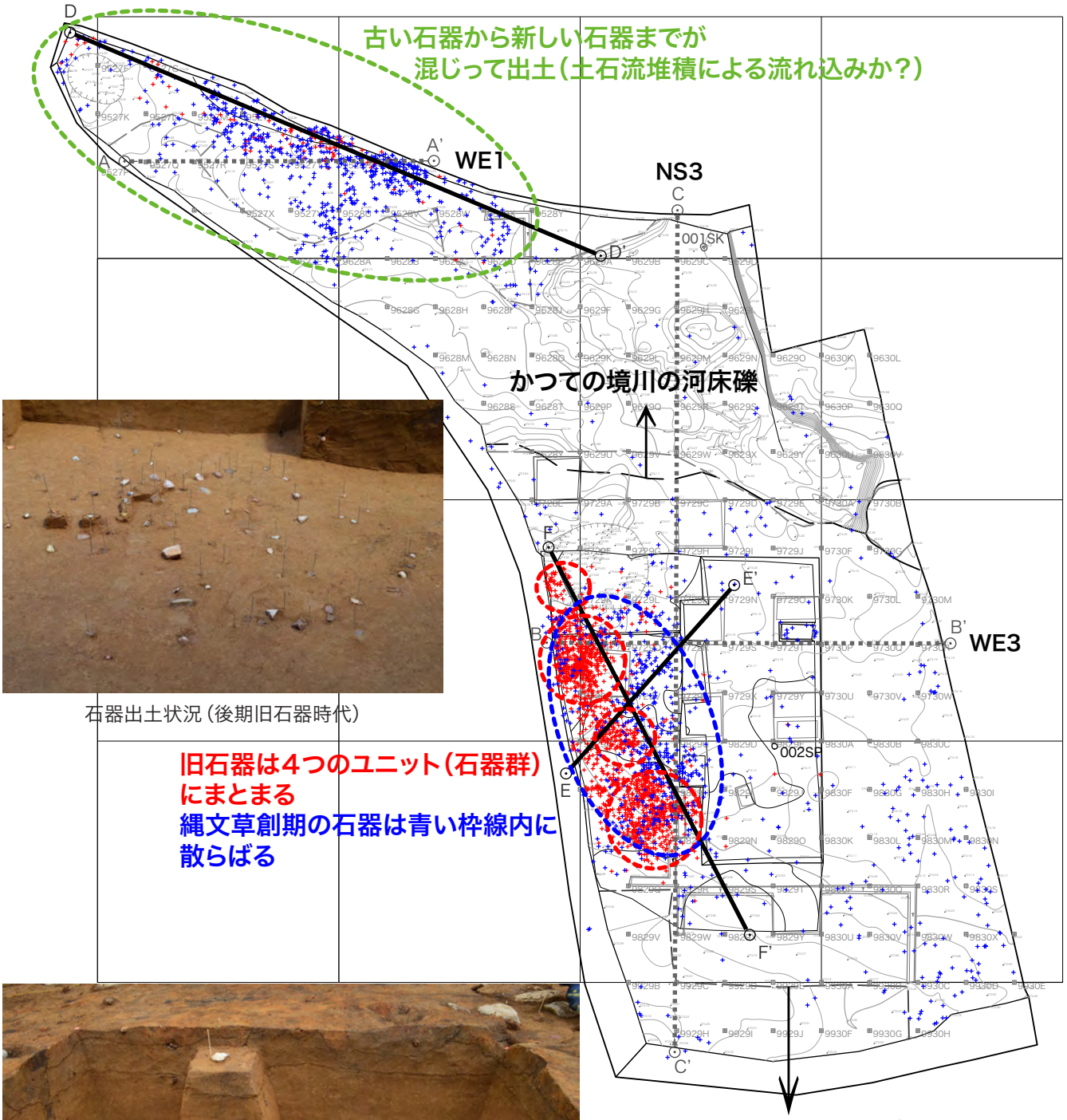
上面遺構全景（北西より）

木葉形尖頭器出土状況（縄文時代草創期）

木葉形尖頭器出土状況（縄文時代草創期）

有舌尖頭器出土状況（縄文時代草創期）

石錘出土状況（縄文時代後・晩期）

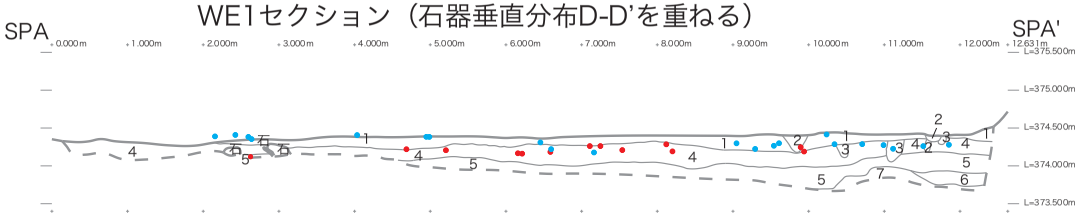


石器出土状況（後期旧石器時代）

川向東貝津遺跡 石器群出土状況（S=1:250）

縄文時代草創期と後期旧石器時代の石器出土層位の違い

WE1セクション（石器垂直分布D-D'を重ねる）



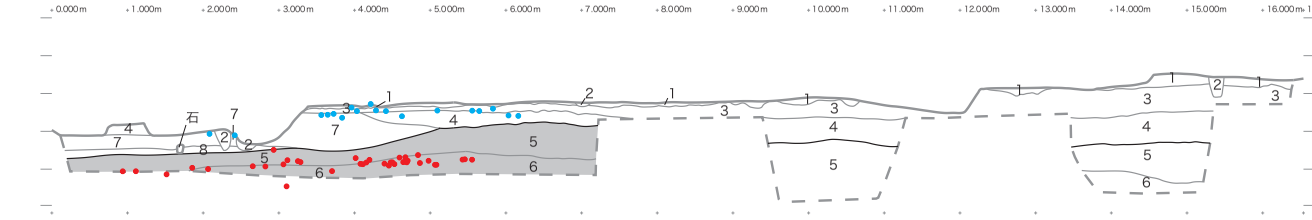
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 細砂混じり シルト質粘土
2. 10YR3/3 暗褐色 細砂混じり シルト質粘土
3. 10YR7/8 黄橙色 細砂混じり シルト質粘土
4. 10YR6/8 明黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト
5. 10YR6/6 明黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト 1cm～10cm大の礫含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト
7. 10YR4/4 褐色 中粒砂

青い●は縄文時代草創期の石器出土地点

赤い●は後期旧石器時代の石器出土地点

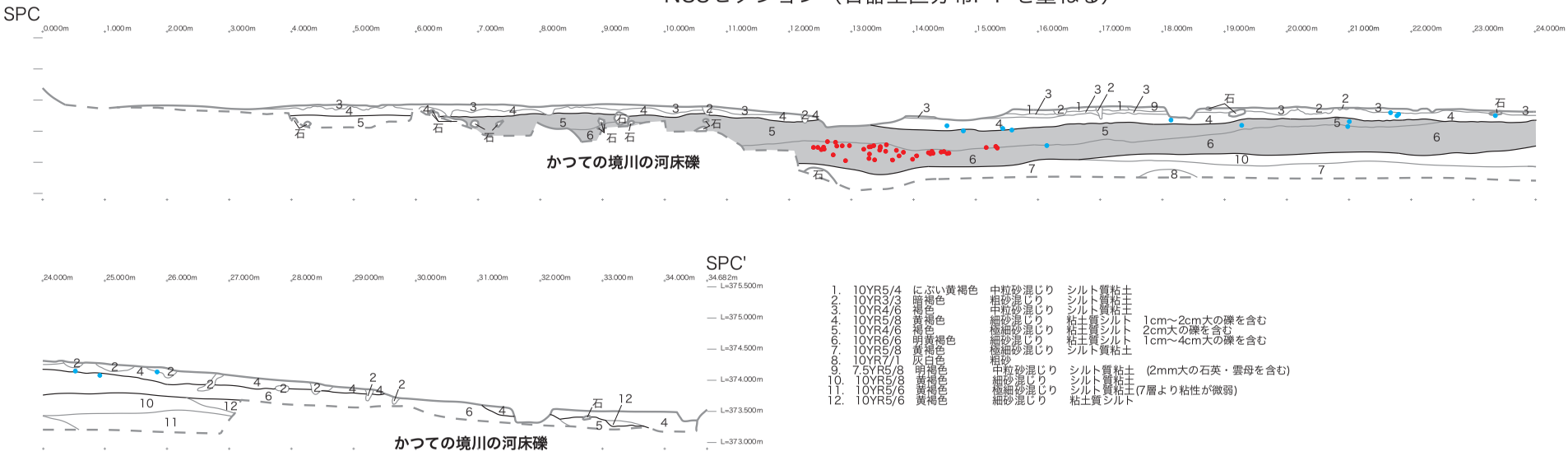
薄いトーンは後期旧石器時代の石器出土層位

WE3セクション（石器垂直分布E-E'を重ねる）



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 中粒砂混じり シルト質粘土
2. 10YR3/3 暗褐色 粗砂混じり シルト質粘土
3. 10YR4/6 褐色 中粒砂混じり シルト質粘土
4. 10YR5/8 黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト 1cm～2cm大の礫を含む
5. 10YR4/6 褐色 極細砂混じり 粘土質シルト 2cm大の礫を含む
6. 10YR6/6 明黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト
7. 10YR5/8 黄褐色 極細砂混じり 粘土質シルト
8. 10YR4/6 褐色 極細砂混じり 粘土質シルト

NS3セクション（石器垂直分布F-F'を重ねる）



1. 10YR5/4 にぶい黄褐色 中粒砂混じり シルト質粘土
2. 10YR3/3 暗褐色 粗砂混じり シルト質粘土
3. 10YR4/6 褐色 中粒砂混じり シルト質粘土
4. 10YR5/8 黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト 1cm～2cm大の礫を含む
5. 10YR4/6 褐色 極細砂混じり 粘土質シルト 2cm大の礫を含む
6. 10YR6/6 明黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト 1cm～4cm大の礫を含む
7. 10YR5/8 黄褐色 極細砂混じり シルト質粘土
8. 10YR7/1 灰白色 粗砂
9. 7.5YR5/8 明褐色 中粒砂混じり シルト質粘土 (2mm大の石英・雲母を含む)
10. 10YR5/8 黄褐色 細砂混じり シルト質粘土
11. 10YR5/6 黄褐色 極細砂混じり シルト質粘土(7層より粘性が微弱)
12. 10YR5/6 黄褐色 細砂混じり 粘土質シルト

石器出土層位 (S=1:100)

4.大栗（おおぐり）遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　鈴木 恵介

所在地：北設楽郡設楽町川向字大栗（北緯35度6分39秒 東経137度33分53秒）
調査期間：平成28年9月～12月
調査面積：3,190㎡
調査担当者：樋上 昇・鈴木恵介

立地と環境

大栗遺跡は豊川の支流にあたる戸神川左岸の斜面上に立地しています。現況は、西向きの斜面に盛り土し、畑や水田とした平坦地に杉が植林されていました。

昨年度は今回の調査区の西側で発掘調査がおこなわれ、縄文時代早期の土器破片や縄文時代と考えられる集石土坑（しゅうせきどこう）、戦国・江戸時代の土坑などが確認されています。

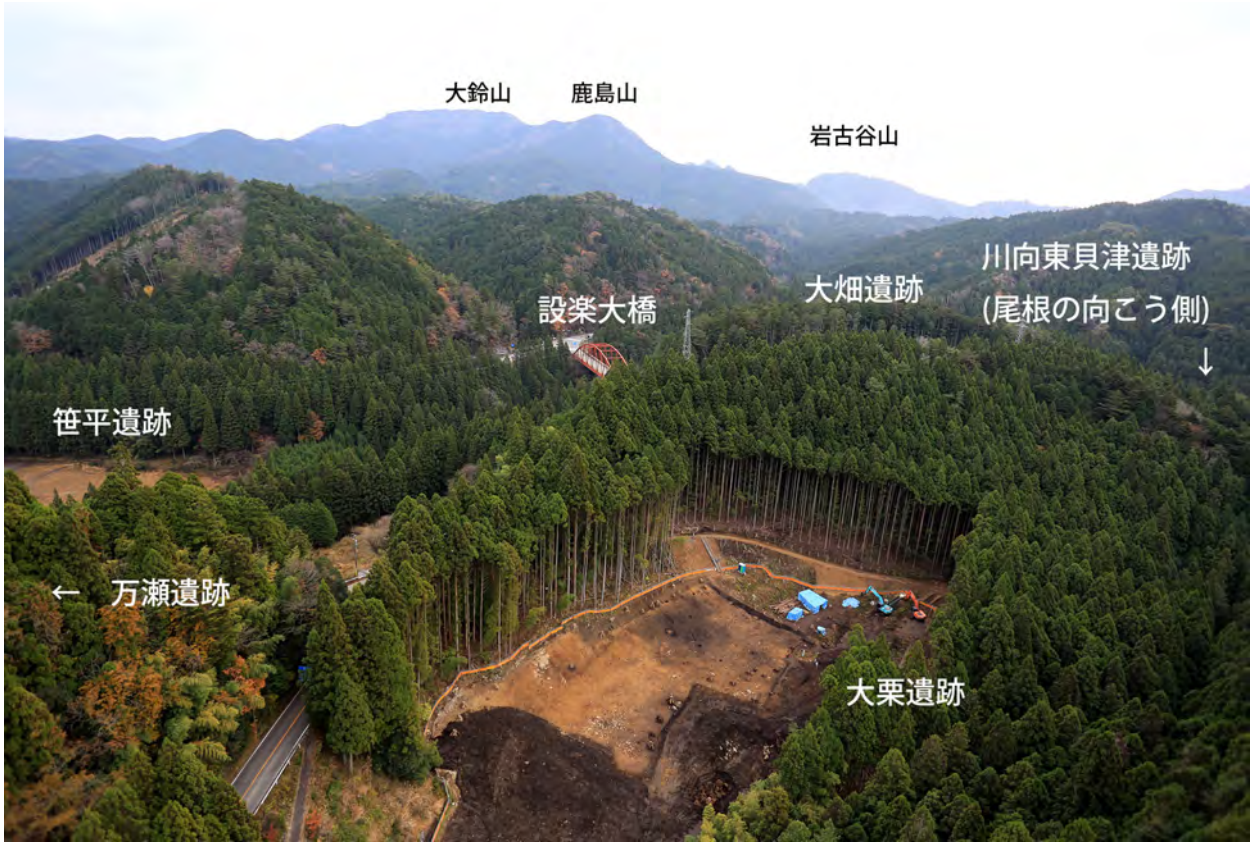
今年度の調査区は、国道257号線から西に向かって下る急な斜面の裾部分とそれに連続する幅が20～30m程の平坦面からなります。平坦面の標高は401～402m、斜面部分は402～408mに位置しています。

調査の成果

遺構は古い方から順に、縄文時代早期と考えられる煙道付炉穴（えんどうつきろあな）246SL、縄文時代中期の竪穴建物跡090SI、縄文時代と考えられる集石土坑266SL、陥し穴群。江戸時代以降の柱穴列070SA、近現代の火葬施設と考えられる001SX、002SXがあります。これらの内、090SIは大栗遺跡内で初の竪穴建物跡の検出例、246SLは設楽町内初めての煙道付炉穴の発見となります。

江戸時代より後のものと考えられる遺構の多くは調査区北半に集中し、斜面中に造成された小規模な平坦面や斜面中にあります。それに対して、縄文時代の遺構は、斜面の裾に広がる幅20～30mの平坦面とその周辺に存在し、遺構の立地がはっきりと分かれる状況が見えます。陥し穴群は竪穴建物跡等と離れ、調査区の南半に位置します。

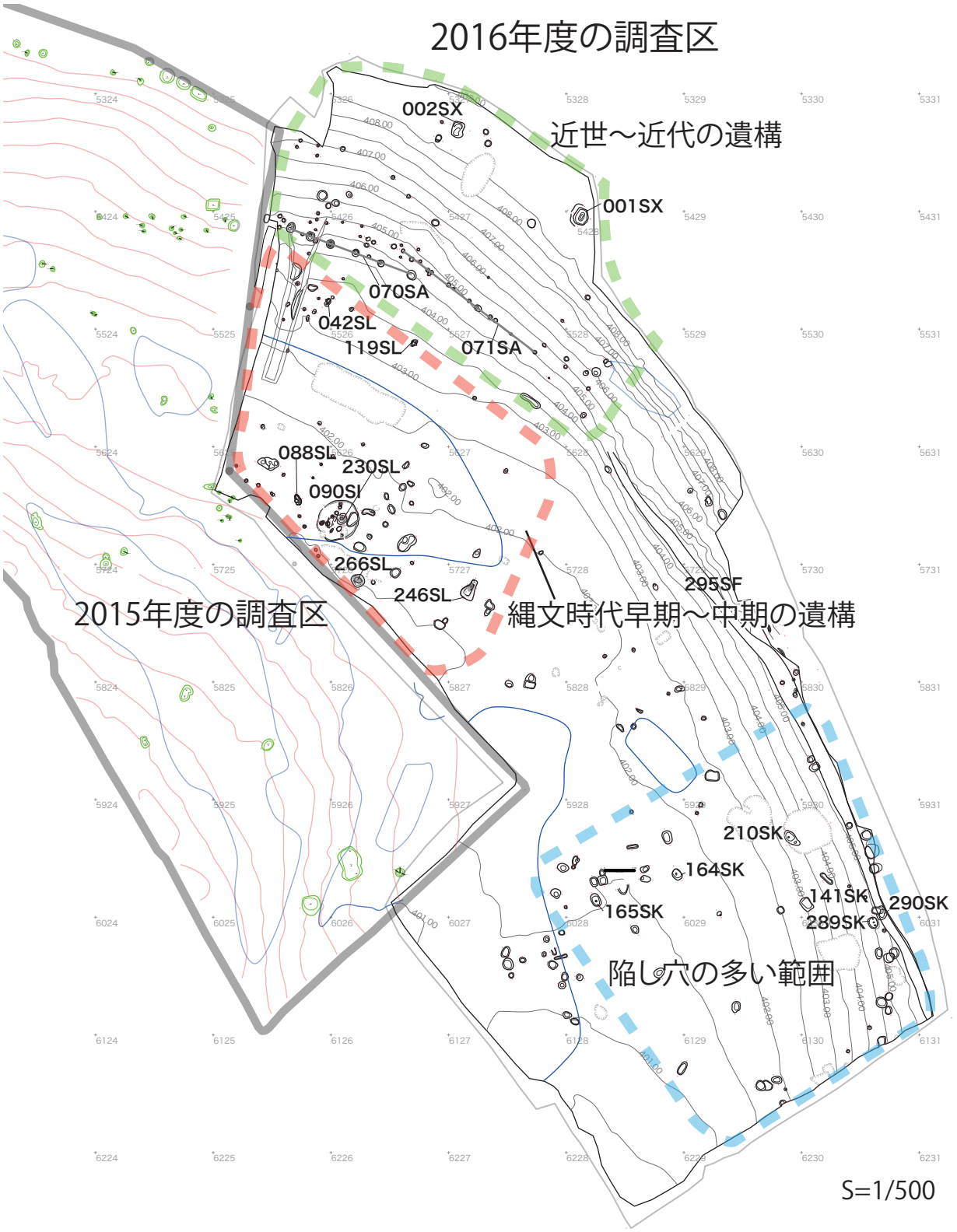
これらの遺構の存在は、斜面裾に広がる平坦面が縄文時代中期～早期にはすでに存在していたことを明らかにしました。同時に縄文時代の遺構の立地についても、早い段階から形成された平坦面には遺構が存在する可能性がある、ということが確認できたことは重要な事例になると考えられます。



大栗遺跡全景と周辺の遺跡（北西より）

大栗遺跡16B･C区の主要遺構（北より）

大栗遺跡2016年度調査区と遺構の分布傾向



近世～近代の遺構は平坦な部分を耕作地とし、居住などを斜面部にて行ったためこのような分布になった可能性があります。それに対して縄文時代の遺構は、当時の地形による制約、遺構毎の年代の差（早期と中期以降）、後の時代の開墾から逃れたという要因によるものと思われます。

柱列 070SA(北より)

070SAの柱穴のひとつ 058SP(北より)

火葬施設 001SX(西より)

陥し穴 164SK(西より)

竪穴建物跡090SI(北より)

竪穴建物内石囲炉230SL(北西より)

煙道付炉穴 246SL(西より)

集石炉266SL(西より)

5. 西地（にしじ）・東地（ひがしじ）遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　川添和暁

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字西地、東地（北緯35度6分41秒 東経137度32分37秒）
調査期間：平成28年10月～12月
調査面積：340㎡
調査担当者：樋上　昇・川添和暁

立地と環境

西地・東地遺跡は標高約450m、寒狭川（かんさがわ）左岸の山から伸びる傾斜地および河岸段丘（かがんだんきゅう）上に立地します。遺跡の場所は大名倉地区の北西端で、寒狭川による谷地形が開け始める地点に当たります。寒狭川の対岸には、昭和43（1968）年、早稲田大学の調査で縄文時代後期の遺物が多く出土した、大名倉遺跡があります。

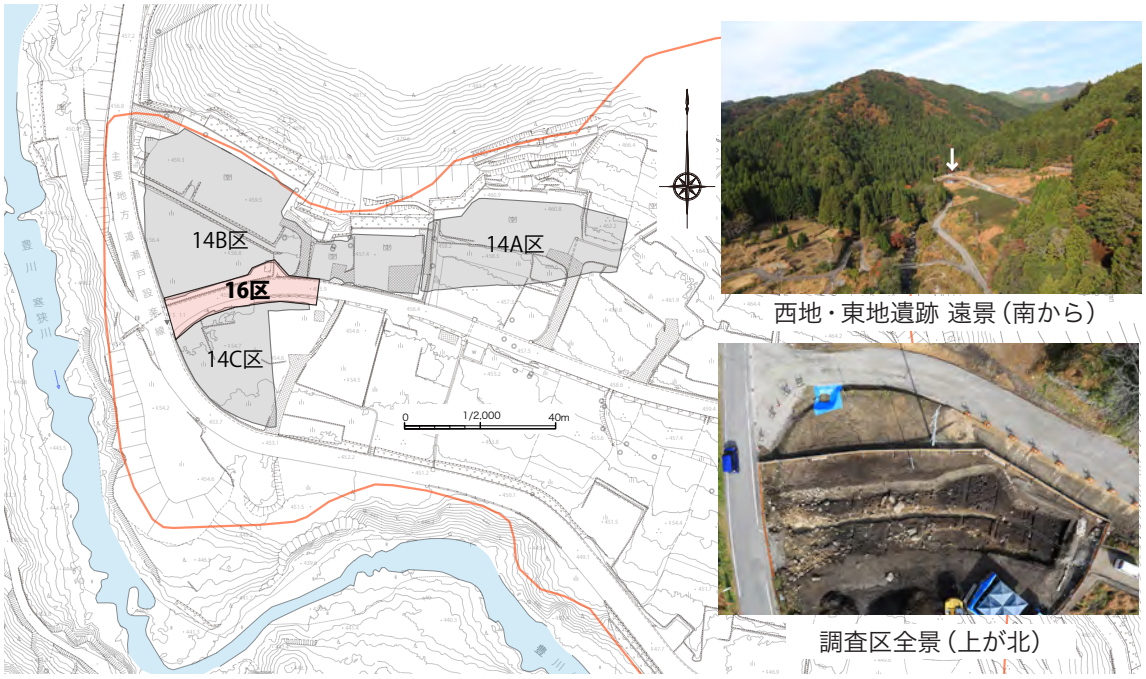
西地・東地遺跡は、平成26年度に調査が行われ、縄文時代中期後半から後期初頭（今から5,000年前～4,400年前頃）の集落跡が見つかっています。今年度は、この時に調査ができなかった町道部分を中心に調査を行いました。遺構・遺物は調査区中央を中心に見つかりましたが、中世以降と縄文時代との、大きく二つの時代に分けられます。

調査の成果その１　中世以降の遺構と遺物

調査区北側、14B区に接したところで、遺構・遺物が多く見つかりました。遺構には、竪穴状遺構（たてあなじょういこう）・土坑（どこう）・ピットなどがあります。竪穴状遺構061SXは、屋根のある作業場であったと考えられるものです。一辺5mほどのやや不定形な四角形の形で見つかりましたが、調査によって2基の竪穴状遺構が重なっていたことが明らかとなりました。掘り方の周りには柱痕列（ちゅうこんれつ）が巡るように確認されました。この061SXでは中央に炉跡（ろあと）などは確認されなかったものの、埋土には焼土粒や炭化物が多く含まれており、底面中央では鉄滓（てっさい）が出土しました。調査区北西端の、長径1mほどの浅い土坑253SK内からも、焼土粒や炭化物に混じって鉄滓が出土しました。このような遺構は、当時の野鍛冶などを行った場所であったと考えられます。中世以降の遺物には、室町時代古瀬戸後期（こせとこうき）の天目茶碗（てんもくちゃわん）や平碗（ひらわん）のほか、中世常滑（とこなめ）の甕（かめ）や砥石（といし）、銅銭（どうせん）などがあります。

調査の成果その２　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構では、土坑群・ピットが見つかりました。土坑は北側中央の高い部分を中心に径1m以上の大型の土坑が10基ほど見つかっています。土坑内では台石（だいいし）



調査区位置図（1:2,000）

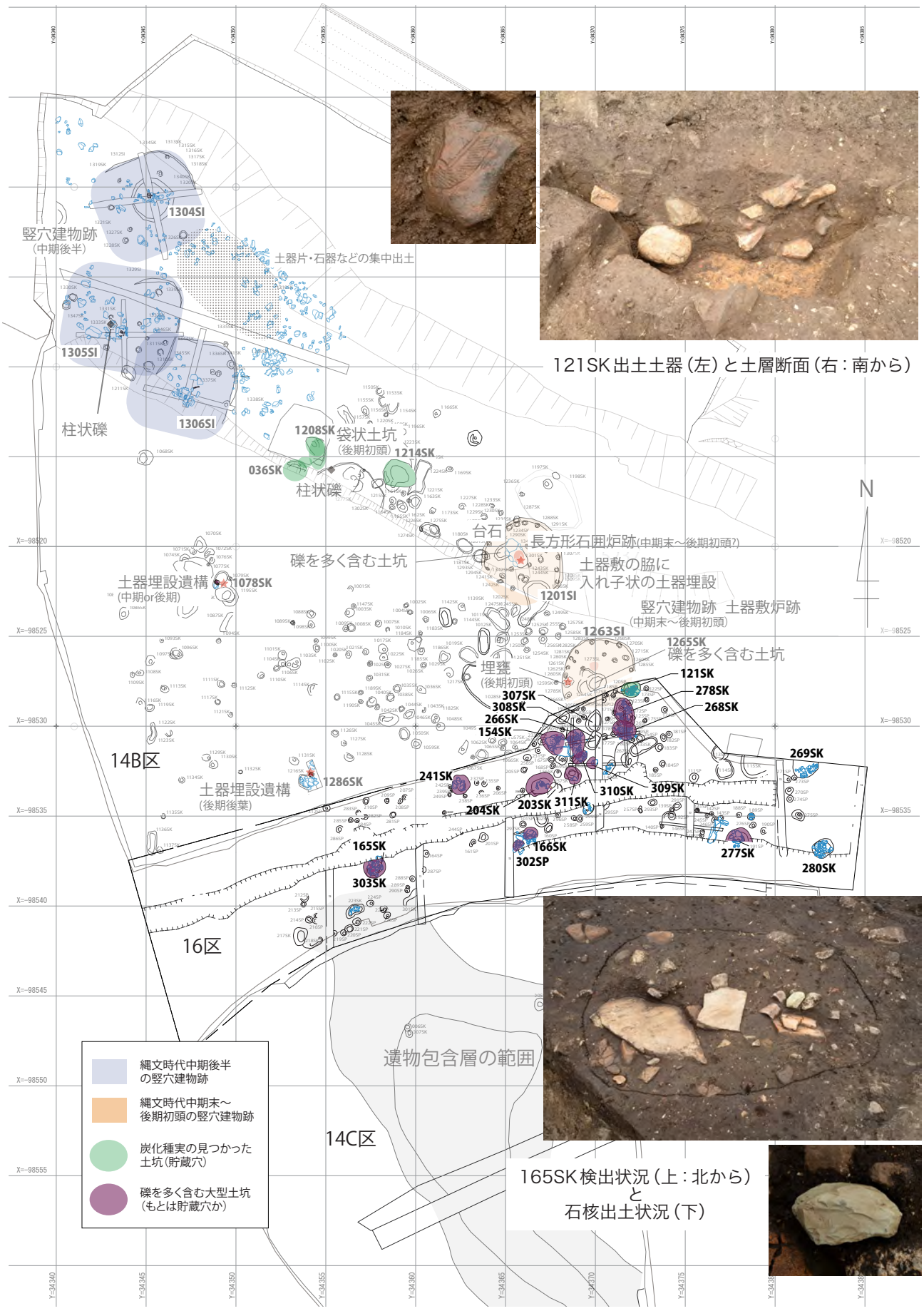
などを含む大きな礫が多量に見つかっており、土坑154SK・266SK・310SKでは、掘り方に沿って板石などが入れられていました。礫のなかには焼けた痕も見受けられます。土坑121SKも、埋土内に板石などが多量に入れられていた遺構ですが、炭化種実（堅果類）も確認されたことから、貯蔵穴であったと明確に推定できるものです。土坑165SKと303SKは西側の低い部分で重なって見つかった大型土坑です。165SKは上層にある、浅い皿状の土坑で、熔結凝灰岩の石核が見つかったほか、中央の凹みに向かって大きな台石や焼けた礫、土器の底部などが見つかりました。303SKは、その下層にある大きな土坑で、土器のほか礫が多く出土しました。

縄文時代の出土遺物では、土器・石器・石製品が見つかりました。土器は縄文時代後期初頭（今から約4,400年前）が主体で、早期後半（今から約7,000年前）や中期後半（今から約5,000年前）のものも若干ありました。石器では、石鏃・尖頭器・スクレイパーのほか、磨石敲石類と石皿台石類が多く出土しました。

調査の成果

今回の調査で、14B区で見つかった縄文時代集落跡全貌を捉えることができました。16区は、縄文時代後期初頭の貯蔵穴など大型の土坑群の分布域であったことが明らかとなり、集落景観を考える上で、重要な調査事例となったといえます。

西地・東地遺跡中世以降遺構位置図（1:300）【マス目は5m】



121SK出土土器(左)と土層断面(右:南から)

165SK検出状況(上:北から)
と
石核出土状況(下)

西地・東地遺跡縄文時代遺構位置図(1:300)【マス目は5m】

6.滝瀬（たきせ）遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター　早野 浩二

所在地：北設楽郡設楽町八橋字タキセ（北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒）
調査期間：平成28年5月～11月
調査面積：5,520㎡
調査担当者：川添和暁・早野浩二

【遺跡と発掘調査の概要】

・北設楽郡設楽町八橋字タキセ
・境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地
　境川と長江川の合流点近く、遺跡には江戸時代の伊那街道が通る
・縄文土器・室町期陶器（『北設楽郡史』）
　縄文、室町（戦国）時代の遺物散布地（『詳細遺跡分布調査報告書』）
・平成19・24・25年度に範囲確認調査を実施し、遺構と遺物を確認
・平成27年度に1,470㎡の発掘調査を実施
・平成28年度は5,520㎡の発掘調査と範囲確認調査を実施（５月から12月）

【今年度の発掘調査で見つかった主な遺構と遺物】

・縄文時代早期（今から10,000年前から7,000年前ころ）
　集石遺構、その他土器が出土した落ち込みなど
　土器（押型文土器など）と石器（トロトロ石器など）
　※集石遺構：加熱した石を使って蒸し焼き調理をする施設
　※トロトロ石器：形は石鏃に似ているが、用途はよく分かっていない
・縄文時代中期後半（今から4,500年前ころ）
　竪穴建物跡（石囲炉を設置）
　…床面上からは石皿・台石類が多く出土
　埋甕（うめがめ）（竪穴建物に伴うもの？）
　その他、土器がまとまって出土した土坑など

・縄文時代後期前葉から中葉（今から4,000年前ころ）

—滝瀬遺跡でもっとも遺構と遺物が多い（特に調査区北東に多い）

敷石建物跡（土器埋設炉を設置）、配石・集石遺構の一部

…大型石棒片や黒曜石の大型剥片などが出土

周囲からは注口土器（大型のものも含む）も多く出土

土器埋設炉（竪穴建物に伴うもの？）

貯蔵穴（炭化種実が出土）

大型砥石や擦切具が出土した土坑

※（柄鏡形）敷石建物跡：

床面に平らな石を敷いた竪穴建物、関東から中部高地に多く分布する

儀礼に関係する特殊な建物と考えられているが、よく分からない

豊富な石器類

…石鏃・スクレイパー・打製石斧・打欠石錘・切目石錘・有溝石錘・

磨石敲石類・石皿台石類・大型剥片類・小型剥片類

（特に大型剥片類と打製石斧の出土が多い）

・弥生時代終末から古墳時代初頭（今から1,800年前ころ）

調査区北西に土器（壷・甕・高杯）が散在

設楽地区では希少な時代

・江戸時代以降

道路状遺構（旧伊那街道）

【まとめ】

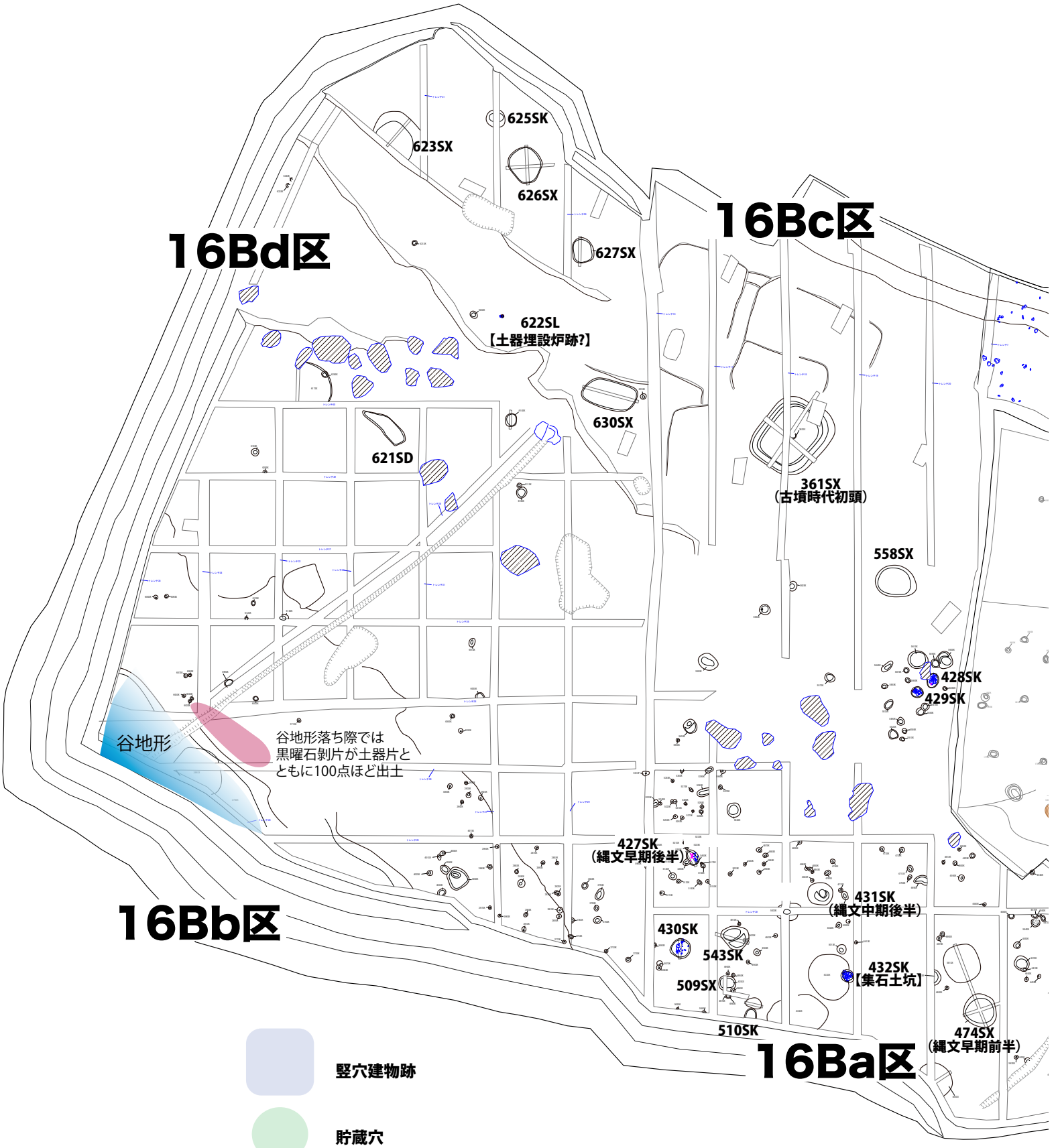
・縄文時代後期前葉から中葉の遺跡の状況が具体的に明らかになった！

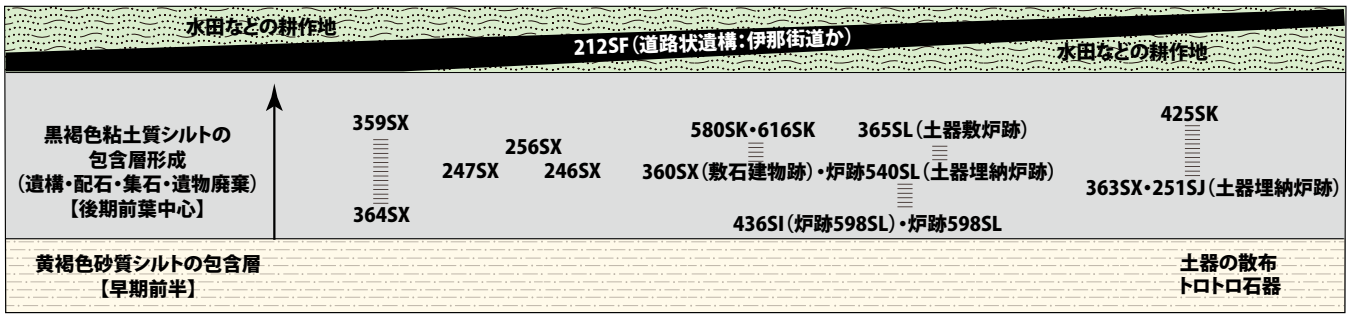
住む…竪穴建物と炉—継続した居住、遺物の廃棄

祀る…特殊な敷石建物—注口土器や大型石棒など

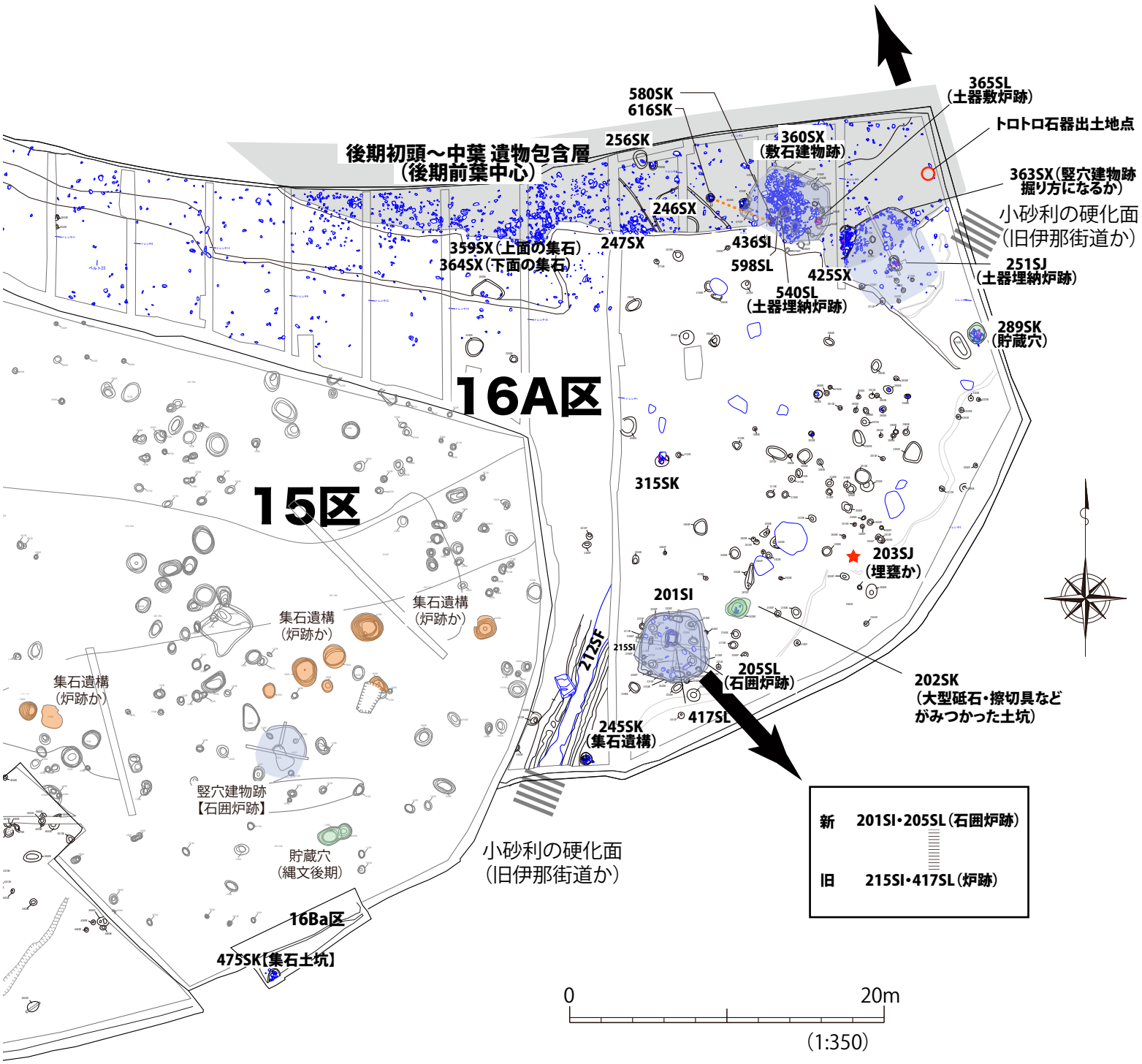
作る…石器製作—大量に出土した打製石斧と大型剥片

・今後の調査では縄文時代早期に関わる成果にも期待


16Bd区
16Bc区
16Bb区
16Ba区
625SK
623SX
626SX
627SX
622SL
【土器埋設炉跡?】
630SX
621SD
361SX
（古墳時代初頭）
558SX
428SK
429SK
谷地形
谷地形落ち際では
黒曜石剥片が土器片と
ともに100点ほど出土
427SK
（縄文早期後半）
431SK
（縄文中期後半）
430SK
543SK
509SX
432SK
【集石土坑】
510SK
474SX
（縄文早期前半）
竪穴建物跡
貯蔵穴
集石炉跡



16A区 北東端 遺構など重複関係模式図（破線による上下は切り合いなどで新旧関係が確認されているもの）



滝瀬遺構位置図（1:350）【川添作成】

平成28年度各調査区全景

集石遺構432SK検出状況

集石遺構432SK断面

16Ba区出土押型文土器

16A区出土トロトロ石器

竪穴建物跡201SI

竪穴建物201SI石囲炉205SL

埋甕203SJ

土坑315SK

縄文時代早期・中期後半の遺構と遺物

敷石建物跡360SX上層礫群検出状況

敷石建物跡360SX検出状況

敷石建物跡360SXの土器埋設炉540SL

敷石建物跡360SX出土黒曜石大型剥片

貯蔵穴（袋状土坑）289SK断面

貯蔵穴289SK出土炭化種実

大型砥石と擦切具が出土した土坑202SK

擦切具出土状況

縄文時代後期前葉から中葉の遺構と遺物

縄文時代後期注口土器

縄文時代後期深鉢

有溝石錘

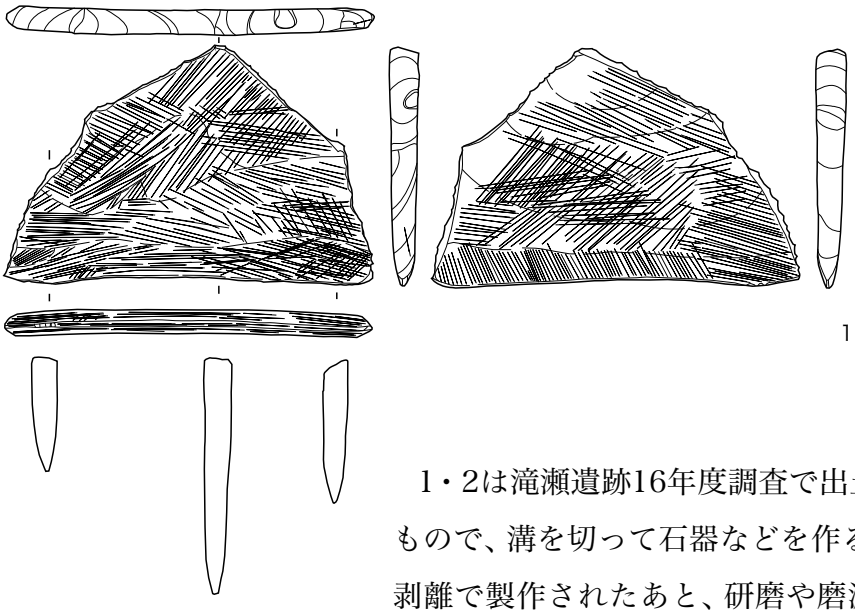
有溝石錘

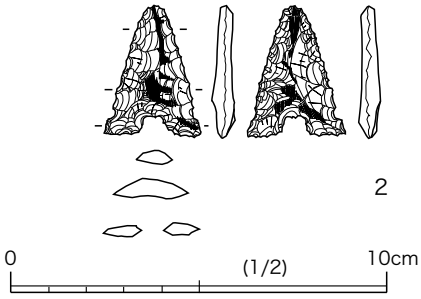
道路状遺構検出状況

道路状遺構土層断面

落書き石墨書

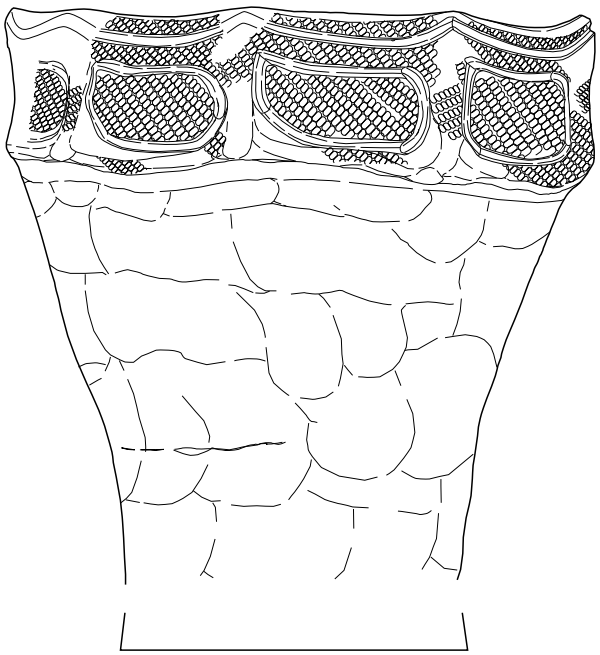
縄文時代の出土遺物・江戸時代以降の道路状遺構

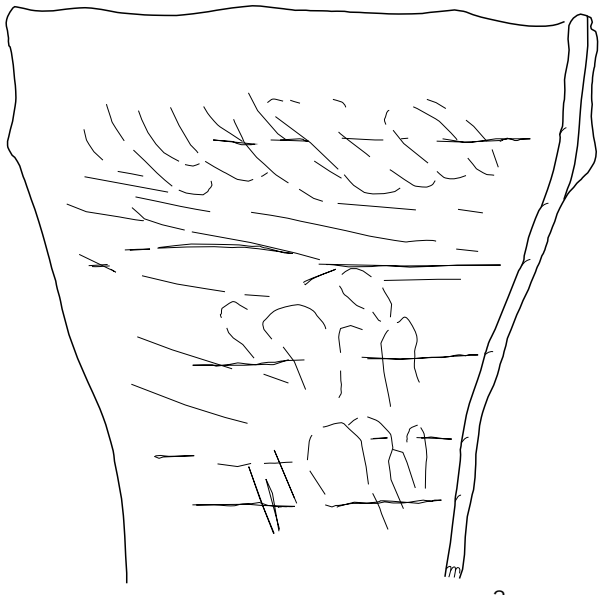


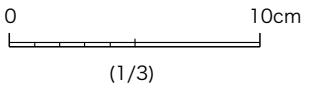


1：磨切具（凝灰質砂岩）、
2：トロトロ石器（チャート）

1・2は滝瀬遺跡16年度調査で出土した遺物です。1は、縄文時代後期のもので、溝を切って石器などを作る道具です。2は縄文時代早期のもので、剥離で製作されたあと、研磨や磨滅で、表面がトロトロした状態になっています。石製品などとも言われていますが、詳しい用途は不明です。







3は、川向東貝津遺跡の15年度調査で、竪穴建物跡351SJの床面から埋められた状態で見つかった土器です。出土した時は、口縁側を上にして埋められていたもので、底部はなく、上に板石が置いてありました。このようなものは、埋甕といわれています。土器は、縄文時代中期後半（今から約5,000年前）の神明式といわれるものです。

設楽ダム関連調査出土遺物【1・2：滝瀬遺跡、3：川向東貝津遺跡】【川添作成】

（コラム）

笹平遺跡出土の土器棺

笹平遺跡で検出された弥生時代前期の土器棺は、埋葬に使用された土器が県内において希少な類例です。昨年度の成果報告会と一部重複する記述もありますが、ここで改めて紹介します。

土器棺墓（681SZ）は、縄文時代の遺構と遺物が展開する場所から少し離れた遺跡の北東端（15Ba区）で検出されました。土器棺墓の出土状態は、頸部から口縁部の半分を打ち欠き、この部分を上にして、棺身である壺を横向きに置き、状態を安定させるため、棺身の下に礫を数カ所地面との間に置いています。棺身の上は打ち欠いて半身にした深鉢２点を使って、口縁部と頸部をそれぞれ覆うように蓋をしています。

本例のように深鉢片を蓋とし、口縁部あるいは頸部までを打ち欠いて棺身とする土器棺墓の事例は、県内に安城市中狭間遺跡（前期）、豊橋市西側北遺跡（中期）の２例があります。さらに遠隔地の類似例として、佐賀県礫石遺跡では弥生時代早・前期の支石墓内に置かれた土器棺があります（贄2012）。

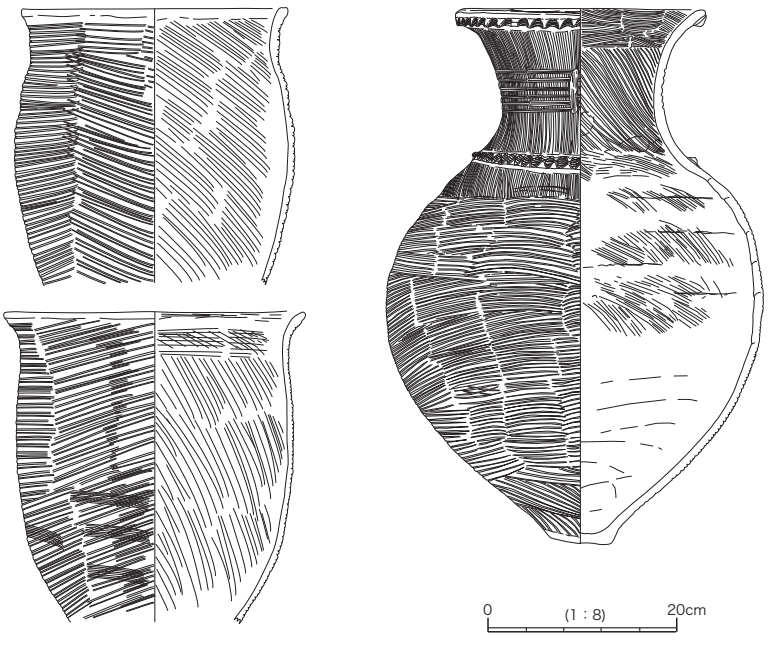
棺身の壺は、上部に遠賀川式土器と下部に条痕文土器の特徴を合わせもつ珍しい壺です。壺の上半部は遠賀川式土器の系譜をひく金剛坂式土器の特徴をもち、下半部は条痕文土器の系譜をひく豊川流域の水神平式土器の特徴をもっています。いずれも前期後半の時期に相当する土器型式で、本例は二系統の土器型式を併せもつ「接触式土器」として注目できます。使用痕としては、再加工痕と煮炊きの痕跡が認められます。再加工痕は二ヶ所あります。一つは、口縁部から頸部の半分を打ち欠き、もう一つは胴部下半に小孔を開けています。煮炊きの痕跡は、内面に炭化したおこげや外面の煤が横にした状態で付いています。

蓋として利用されている深鉢２個体は、よく似た特徴を持っています。表面の条痕文は水神平式の典型的な横位羽状条痕文になる前段階で、器形や口縁端部の仕上げ方が前型式の樫王式の特徴を残すことから、水神平式の古相です。

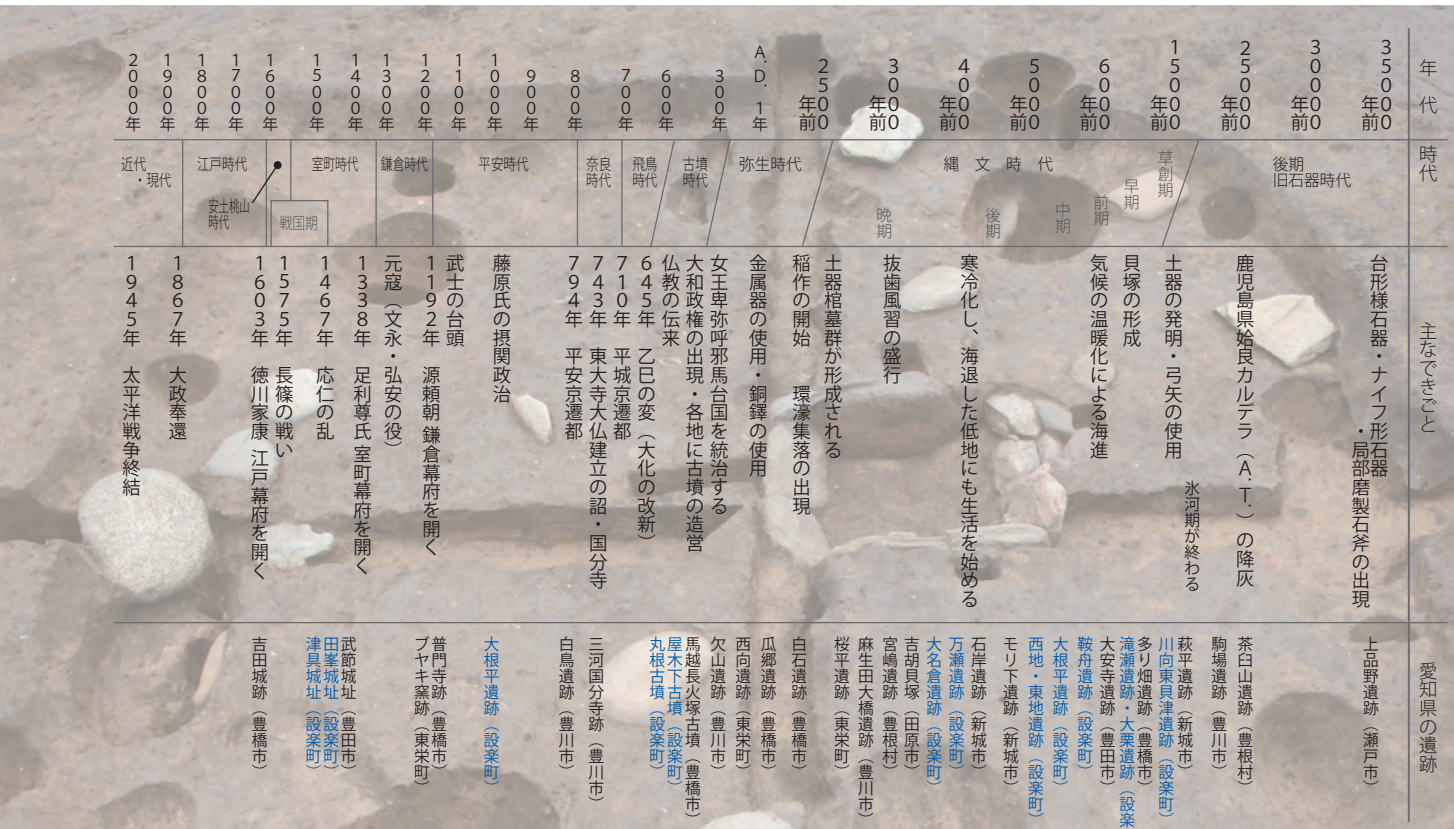
（永井 宏幸）

参考文献

贄　元洋2012「有窓壺棺の系譜−弥生時代における遠隔地交流−」『三河考古第22号』三河考古刊行会



笹平遺跡出土の土器棺（S=1:8）



縄文時代は、一万年以上にもわたる長い時代です。そのため、研究者の間では次のように六期に分けられています。

草創期（15,000年前～11,000年前頃）
早期（11,000年前～7,000年前頃）
前期（7,000年前～5,500年前頃）
中期（5,500年前～4,500年前頃）
後期（4,500年前～3,200年前頃）
晩期（3,200年前～2,500年前頃）

平成 28 年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会　**新設楽発見伝 3**　配付資料
平成 29 年 3 月 4 日　発行

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
電話　調査課（0567）67-4163
〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24
HP　http://www.maibun.com
Facebook　https://www.facebook.com/maibunaichi
Twitter　https://twitter.com/aichi_maibun